

MB&F M.A.D.ギャラリーにて、スイス出身のアーティスト、ラルフォンソが制作した 魅力あふれるインタラクティブなキネティック立体造形作品を展示

キネティックアートを手掛ける創造性豊かな立体造形作家、ラルフォンソ。その卓越した才能を示す数多くの作品が、世界各地で常設展示されている。エンジニアリングとアートを見事な手腕で融合させるラルフォンソは、立体造形に「動き」を取り入れることで伝統的な彫刻の概念を超越。こうして生み出された作品が「Art in Motion」(動くアート)だ。

ジュネーブの MB&F M.A.D.ギャラリーでは 2018 年 1 月 10 日より、ラルフォンソによる制作数限定の稀少で優美な小型作品「Art in Motion」(アート・イン・モーション)を展示する。

キネティック立体造形

ラルフォンソの力強い立体造形作品に魅力あふれる 4 次元的な感覚を加味しているのが、風、水、光、時間といった要素だ。周囲の自然環境が、彼のキネティックアート作品の滑らかな動きを際立たせ、母なる自然との生き生きとした意外性あふれる相互作用を生み出している。

ラルフォンソは「私は作品に、時間、つまり時間の経過に伴う変化という要素を加えています。それによって、単なる 3 次元の形を超えた感覚がもたらされるのです。」と指摘する。

自然環境を生かしたインタラクティブアートの素晴らしい見本といえるのが、ラルフォンソが 2008 年の北京オリンピックのために依頼されて制作した高さ 10m の大作「Dance with the Wind」(ダンス・ウィズ・ザ・ウィンド)だろう。この立体造形作品は、ちょっとしたそよ風に、あるいは激しい強風に合わせて波打つように揺れ、ダンスのような诗情あふれる、それでいて意外性のある動きを見せる。垂直構造の作品の最上部に配された平らな円盤状のオブジェが風に押されると、連なった 5 つの球体が動き出す。その際には、最下部の重りが付いた球体によって全体の平衡が保たれる。作品を鑑賞する人に強い印象を与えるのは鏡面ポリッシュ仕上げが施されたステンレススチールで、この光を反射する素材が、日差しを浴びて輝く周囲の情景を映し出すのだ。この作品を高さ 100cm に仕上げた 15 点限定のコレクター向き小型版は、見る人に、催眠術にかかって体が揺れるような感覚をもたらすだろう。

ラルフォンソは、圧倒的な想像力とアートに動きを与える並外れた感性によって、キネティック立体造形を自由自在に操ることができる。その独特の才能は、「KARO」と題された作品でも発揮されている。KARO とはドイツ語で菱形、すなわち幾何学的なダイヤモンド形を意味する。この高さ 120cm で、わずか 10 点限定の作品をよく見ると、自律的に平衡を保つダイヤモンド形のオブジェが 16 個集まって、より大きい菱形を形作っていることがわかる。これらの菱形オブジェの印象的ですがっきりとしたラインは、少しでも風が吹いたり、手で触れると、まるで生命が吹き込まれたかのように前後に動き、様々な模様を描き出す。

今回出展されるその他の作品に、「EXclamation」(エクスクラメーション)という、ゆっくりとした動きで傾くオブジェがある。感嘆符をイメージしたこの作品は、一見、床に倒れたまま動かなくなるように思われるが、巧みな重りの仕掛けにより、起き上がって元の位置に戻るようになっている。想像してみよう。この思わず目を奪われる造形芸術や、ラルフォンソの他の秀逸な作品が、庭園の木々の間に溶け込むように配置されて動く光景を。屋上のテラスで風に揺れている場面を。「EXclamation」は高さ 80cm で、33 点の限定制作品となっている。

詳細についてはこちらまでお問い合わせください:

Juliette Duru (MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland)

Eメール: jd@mbandf.com 電話: +41 22 508 10 36

制作プロセス

長さ 15m におよぶ作品「TUBUS」(チューブス)などの大型の屋外インスタレーションから、45cm 程度の小型の造形作品まで、ラルフォンソの作品のインスピレーションの源は自身を取り巻く自然であり、ひいてはこの世界そのものが彼のアトリエとなっている。

各作品は、プロジェクトの規模によって4か月～1年間をかけて制作される。ラルフォンソはデザインのアイデアをスケッチ画にまとめ、そこで作品の構造、そして水平軸や重り付きの部分を含んだ機械仕掛けに必要な表側からは見えない動作機構の細部を練り上げていく。彼は次のように説明する。「ここですべきことは、デザイン、動作機構、テクノロジーを適切に組み合わせること、それからこれまで全く見たことがない『動くアート』作品を創作することです。」

次に小型の模型を用いて、最初のスケッチを立体的な形に構成する。得られた立体構造でテストを実施し、細かい調整を加える。CADプログラムを使用することもある。立体の構成は制作の最終段階で、レーザー、ウォータージェット、CNC切削加工、3Dプリントなど、あらゆる技術を駆使して行われる。正確なスケールで作品を構成し、テストが完了したら、インスタレーションとして設置することができる。

ラルフォンソの作品は、コレクターの要望に見事に応えるもので、眼識の高い顧客のために、制作点数が極めて限られた作品、特注品、特定の場所での展示用デザインや、特定の目的のための1回限りの「ワンオフ」デザインを提案している。依頼主であるコレクターは、最終的にインスタレーション作品を設置する場所に応じて、316Lステンレススチール、ガラス繊維、アルミニウム、ケブラー繊維などの様々な素材から希望のものを選び、さらにカラーや鏡面ポリッシュ仕上げ、マットポリッシュ仕上げといった仕上げに関するオプションを指定することができる。つまり、作品の外観には無限のバリエーションが考えられるわけだ。彼の作品は最近、サザビーズ・ニューヨークが主催した「コンテンポラリーキュレーテッド」オークションにおいて高い人気を集め、落札されている。

経歴

ラルフォンソは 1999 年に大型のパブリック・キネティックアート作品の制作を始め、今日ではこの分野の巨匠として広く認められている。彼の作品は、故郷であるスイスをはじめ、オランダ、ロシア、中国、ドイツ、香港、アラブ首長国連邦、フランス、米国など世界各地で、公共、個人そして美術館のコレクションとして所蔵されている。

立体造形を専門とするラルフォンソは、ほとんどのアーティストとは違い、アート活動を始めてまもなく公共空間用の大掛かりなインスタレーションを手掛けるようになる。実際、彼が最初に受けた依頼は、サンクトペテルブルク(ロシア)にある高級高層ビル「New Star」のための作品「Moving on UP」の制作だった。その後、コレクションの幅を広げ、制作数を限定した小型のキネティック立体造形作品を発表するようになった。

2015年1月、CNNインターナショナルが「THE ART OF MOVEMENT – Wind Sculptures Inspired by Nature」(動きのあるアートー自然からインスピレーションを得た風に動く立体造形)と題したドキュメンタリー番組を制作し、世界各地で展示されるラルフォンソのキネティックアート作品を紹介。そのすぐ後で『』フ

詳細についてはこちらまでお問い合わせください:

Juliette Duru (MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland)

Eメール: jd@mbandf.com 電話: +41 22 508 10 36

オーブス』誌が、ラルフォンソの小型の立体造形作品について、「Kinetic Art Trending In Homes Thanks to Artist Ralfonso」(アーティストのラルフォンソが生み出すトレンドーインテリアとしてのキネティックアート)という詳細な記事を掲載した。

キネティックアートに情熱を傾けるラルフォンソは、2001年にキネティックアート協会(KAO: Kinetic Art Organization)を共同設立した。同協会は現在、世界60か国以上の国々に1000人の会員を擁する団体に成長している。

詳細についてはこちらまでお問い合わせください:

Juliette Duru (MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland)

Eメール: jd@mbandf.com 電話: +41 22 508 10 36